



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第 23 号 2022 年 4 月発行

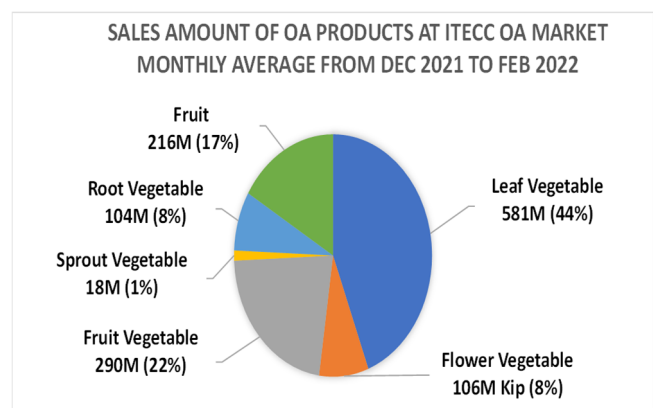
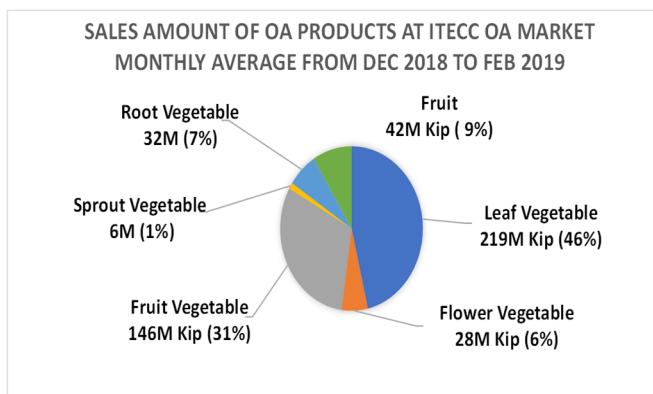


このプロジェクトは5年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤプリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. OA マーケットに関するエンドライン調査結果の概要

プロジェクトではエンドライン調査の一環として、有機農業（OA）マーケットにおける生産物（野菜・果物）の販売量及び販売額の調査を実施しました。今回は首都ビエンチャンの ITECC (International Trade Exhibition and Convention Centre) OA マーケットの調査結果について報告します。尚、COVID-19 感染拡大の影響を受け、当初の実施予定を大幅に短縮し、2021年12月から2022年2月までの3ヶ月間で実施しました。下記のグラフに、今回の調査をプロジェクト開始時に実施したベースライン調査と比較し、一月当たり野菜・果物の販売額を示しています。



今回の調査結果から当該期間の一月当たりの販売額は、473,000,000 キープ¹⁾（約473万円）から1,315,000,000 キープ（1,315万円）へと2.8倍の増加がみられました。因みに、販売量は36,644kgから93,880kgへと2.6倍に増加しました。特に果物の販売額が著しく増加し、約5倍に達しました。また、今回の調査時において販売額に占める割合の高い上位15品目は、レタス・サラダ菜11.6%、トマト5.4%、完熟パパイア5.0%、コリアンダー3.8%、ワケギ3.4%、ブロッコリー3.2%、グアバ2.9%、キュウリ2.8%、ニンジン2.8%、キャベツ2.6%、バナナ2.6%、カリフラワー2.4%、サイシン2.4%、ハクサイ2.4%、カイラン2.4%の順でした。更に、これら15品目の内、ベースライン調査時と比較し、販売額を3倍以上に伸ばした品目は、トマト5.9倍（ミニトマト除く）、完熟パパイア4.6倍、グアバ35倍、キャベツ4.1倍、バナナ5.5倍、カリフラワー（ベースライン時は販売実績なし）、ハクサイ5.3倍、カイラン3.8倍でした。この他では、OA農家のOAマーケットでの一回当たり販売量は約72kg、その販売額は



1,016,000 キープ（1万円）でした。また、ITECC OA マーケットでのOA農家の一月当たりの販売回数は4.4回で、一月当たりの平均販売額は4,470,000 キープ（4万5千円）との試算結果が得られました。

（写真）サイセタ郡農林事務所

職員による聞き取り調査

1) 1キープ=0.010円（2022年3月末時点）

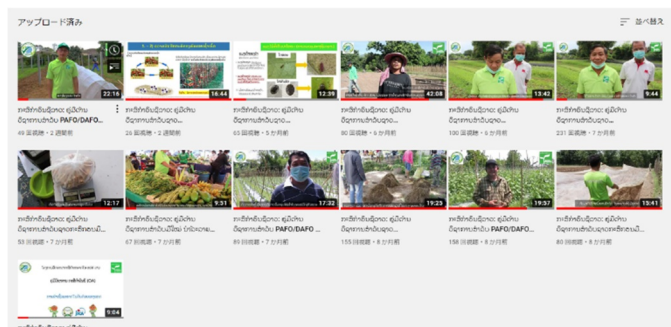
2. 栽培技術マニュアル「Organic Agriculture(OA) Technical Manual」制作について

今回は、栽培技術マニュアルを制作する上での想いについて紹介していきたいと思えます。これまでの冊子や本といった紙媒体による技術普及マニュアルではなく、“スマートフォンからYouTubeへアクセスし、いつでもどこでも好きな時に、動画を通じて誰もが学べる”をコンセプトに制作しております。

特に動画の冒頭では消費者の声、そして末尾では生産者グループの声を入れるように心がけています。動画を通じて消費者からの感謝の声や応援メッセージを生産者側へ届け、安全・安心な農産物を栽培する生産者の声や元気な表情を消費者側へ届ける。両者の想いを繋ぐことが出来ればという想いからの構成にしております。

また、動画内での作業の様子は、前もってプロジェクトから On the Job Training (OJT)を受けた Counterpart 機関の Clean Agriculture Standard Center (CASC) 職員が中心となって OA 農家グループへ指導している様子を納めています。ナレーションも指導を実施した CASC 職員の音声となっております。こちらは Counterpart 機関職員の内発的動機付けに繋がればという想いから行われています。

栽培技術のみならず農業生産に携わる人々の想い、そして農産物を購入する人々の想いを届けることが出来るマニュアル。そんなマニュアルを今後も制作していければ幸いです。



YouTube 内の検索欄に OA Technical Manual と入力いただくと視聴可能です。

英語版マニュアルも概要欄から PDF でダウンロード

できます (PowerPoint 資料のみ)。

OA 現場からの声

このコーナーでは、対象県で有機農業推進に尽力しているキーパーソンに焦点を当て、発信しています。今号は首都ビエンチャン・サイセタ郡ナーサンパイ村の有機農家を取り上げます。



(写真) ナーサンパイ村の有機農家 (左から Mr. パントーン氏、Ms. ソムティップ氏、Mr. プアトーン氏)

ナーサンパイ村は首都ビエンチャンのシンボルであるパトゥーサイから直線距離で約 8 km に位置する都市近郊の村です。有機農家グループが組織されたのは 2006 年であり 15 年以上の歴史があります。

グループ長であるパントーン・ペンサイサワット氏は鶏糞ともみ殻からなる堆肥作りに取り組んでおり、ITECC OA マーケットで堆肥の販売も行っています。同氏を含めて同村のメンバーは堆肥による土づくりに自信を持っています。

ソムティップ・シーハーパンヤー氏とプアトーン・チャンタラー氏はいずれも約 0.2ha の小規模な圃場で野菜を生産しています。雨除け施設がないために雨期には生産できる品目も限定され、生産量も大きく落ち込みます。両者ともに以前は農薬を使用した農業を実践していました。プアトーン氏によれば、親戚の多くがプアトーン氏の生産した有機野菜を求めて連絡が絶えません。また、COVID-19 の感染がひどかった際、ソムティップ氏は無料で生産した野菜を希望者に配布しました。困っている人を助けたいとの一心からです。

ナーサンパイ村の有機農家は小規模ですが有機農業を実践しているという誇りをもって有機農業に取り組んでいます。

発行元：JICA クリーン農業開発プロジェクト

Clean Agriculture Development Project (CADP)

Email; cadp.lao.info2@gmail.com

Tel : +856-21 417 681



<https://www.facebook.com/jicaCADP/>

Homepage

<https://www.jica.go.jp/project/laos/026/index.html>

